



3月に入りました。あずまの前の梅の花がそろそろ咲きそうです。久しぶりのレターですので、じっくり読んでください。

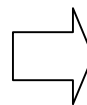
ご存知ですか？学生さんの人気も高い全学仕様の紙ファイル。在庫減に伴い、新規にいろいろな色にて準備しました。学外用にご使用ください。

1. 「研究紹介集2005-2006」にご協力ありがとうございました。

「研究紹介集2005-2006」作成につきましては、ご協力いただきありがとうございました。3月末での印刷上りの予定で最終版チェックの作業に入っております。各種フェアでの配布時の学外の方からの「ちょっと重いから・・・」の言葉に、今回はA5版での作成を試みました。



表紙のデザインもすっきり一新しました。現時点では表紙の紙質がまだ決定していないため、色については大幅な変更があるかもしれません。



2. 「産学官連携ガイド2006」できました。

「産学官連携ガイド2006」は、生活環境学部の学科改組内容を反映し、さらに2006年度カレンダーをつけ、実用的なパンフレットとなるようにしました。500部用意しておりますので、必要な方は産学官連携推進部門までお申し出ください。



3. 第3回研究フォーラム「アパレルの産学官連携」を開催しました。

産学官連携推進部門主催第3回研究フォーラムを、「アパレルの産学官連携」と題して2月7日に行いました。寒い一日でしたが、産・学・官それぞれからの講演をいただき盛会でした。衣環境学専攻の学生も出席し、企業の方の講演には特に熱心に聴き入っていました（参加者総数は約80名）。

産学官連携推進部門のスタッフも、以前から京阪奈地域の産学官連携部門の方と交流を重ねていることもあり、この日は「あっ お久しぶりです！」との会話から始まるなど、少しずつ地域への浸透が目に見えるようになってきています。



清水副学長挨拶

「官、学さらさらに連携」

ダイワホーサン社長ら講演

ハナ 第二四 六九



今後の自社の生き残り戦略について「質の高いオリジナル商品を開発するしかない」と話す辻本社長。7日、奈良市北魚屋町の奈良女子大学。

奈良女子大学第三研究フォーラム「アパレルの産学官連携」(奈良女子大学)が七日、奈良市北魚屋町の生活環境学部で開かれ、県内の企業関係者ら約六十人が参加した。ダイワホーサン社長の辻本勝次氏が一日大転換期にむけての生き残り戦略と題して講演。昭和四十一年に縫製業を創業して以来、第一、二次オイルショックやドルショック、フランクやドルショックの生き残り戦略を、現状を徹底的に把握し、質の高いオリジナル商品を開発するの必要性を感じてきたことを話し、そのために「官、学との連携を強め、共に利益を享受してきたい」と述べた。

同日、同大学生生活環境学部の米田守宏助教授や興工業技術センターの東義昭氏も講演した。米田教授は「アパレルの設計と情報技術」をテーマに、CADとCGを活用して、現物の縫製とデジタルでの縫製を比較し、データの活用による生産性の向上や、顧客の要望に応じた柔軟な生産体制の構築などを述べた。東氏は「産学官連携への取り組みと現状」をテーマに、産学官連携の重要性と、産学官連携の推進策などを述べた。

2006.2.8 奈良新聞より転載



米田助教授プレゼンテーション



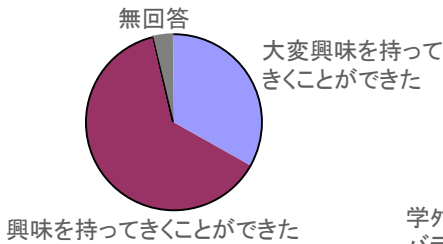
今岡教授プレゼンテーション

講演者リスト

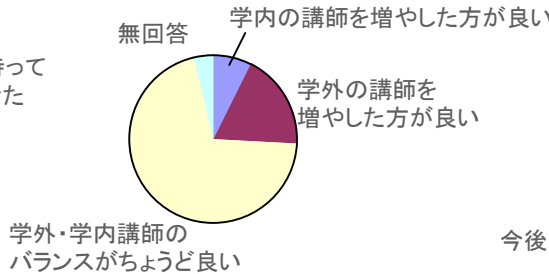
- 奈良女子大学 生活環境学部 米田守宏助教授
「衣料用布の力学特性、風合いおよび快適性」
- 奈良県工業技術センター 次長 東義昭氏
「奈良県工業技術センターの産学官連携への取り組みと現状」
- (株)ダイワホーサン 社長 辻本勝次氏
「大転換期における我社の生き残り戦略」
- 奈良女子大学 生活環境学部 今岡春樹教授
「アパレルの設計と情報技術」
- 奈良県繊維工業協同組合連合会 専務理事 森鎮雄氏
「産学官連携に対する産業界の実状」
- (株)ダン 社長 越智直正氏
「学問と職業」

アンケート集計結果 (一部抜粋)

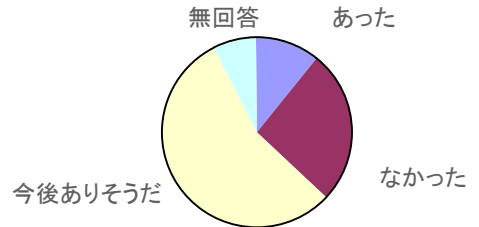
Q: 講演内容は?



Q: 講師は?



Q: 本研究フォーラムに参加して、今後のビジネスにつながる交流が



● 本研究フォーラムについてのご感想・ご意見

研究の成果だけではなくその時点にかかえている問題・課題を言ってもらえると事業者にとっては新たな事業への可能性を見いだすことができる。質問の時間が少ないのは現在のこの様な会の進め方の欠点です。先輩企業経営者の発表では勇気を頂いた。(夢、志と言うテーマでも役立つ)

林業・食・アパレルと3回のフォーラムは有意義でした。奈良の産業の将来ビジョンについてのフォーラムを企画してください。

数式等は難しくて理解しがたいと感じた。

産学連携の具体的事例がなかった。学のシーズのプレゼンを目一杯やっても良かった?

婦人服の製造卸をしています。毎日、CAD、CAMを使用している関係とデザインを担当している私たちにとって、今岡先生の着装シュミレーションには大変興味があります。もう少し突っ込んだお話が聞きたかったです。

少し寒かったです。Coffee Break だけでなく間にトイレ休けいがあったらよかったです。一つ一つの講演の時間が短く、内容があいまい(急いでいたため)なので時間が長い方がよいと思いました。

私たち企業側としては、大学のシーズについての発表がきけて良かった。今後も学のシーズ発表や産官学交流の場があればうれしい。

4. 各種公募情報

千葉大学環境リモートセンシング研究センター H18年度共同利用研究の公募

【学内締め切り】～平成18年3月17日

【問い合わせ】<http://www.cr.chiba-u.jp/whatsnew/2005/H18KyoudouKoubu.doc>

(独)宇宙航空研究開発機構 H18年度共同研究の公募

【公募時期】～平成18年3月18日

【問い合わせ】<http://www.ted.isas.jaxa.jp/spf/application.html>

公募情報についてはリアルタイムに
下記WEBにて随時公開中です。

<http://koto3.nara-wu.ac.jp/kenkyu/kakenjosei.html>

国立民族学博物館 H18年度共同研究の公募

【学内締め切り】～平成18年3月27日

【問い合わせ】<http://www.minpaku.ac.jp/research/jr/offer.html>

京大大学生存圏研究所 H18年度共同利用研究の公募

【公募時期】～平成18年4月17日(金)必着 → 申請書の写しを研究協力課まで提出願います。

【問い合わせ】<http://www.rish.kyoto-u.ac.jp/>

(財)日本生命財団 H18年度環境問題研究助成の公募

【公募時期】平成18年4月17日(月) 協会必着のこと(メール不可)

【応募要件】37歳未満(S44.4.2以降生まれ)学生、院生は応募不可

【問い合わせ】<http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/kankyo/index.html>

学際的総合研究 取り上げた研究課題に対し、いわゆる狭義の学問領域の枠をこえて学際的・総合的な研究として、大学研究者と行政機関やNPO、NGO地域住民等の実践活動者などが協働して推進する多分野協力型、実践型、提言型の研究を募集します。

【助成金額】2年間1000 - 2000万円

【助成期間】平成18年10月から2年間

個別研究 学際的総合研究と異なり、個別研究ではより具体的な問題の研究を募集します。関係するシステムやメカニズムの解明、明日に向けて真に豊かな水環境の創造に橋渡しのできる技術や社会構造、法・政策等の提案に関する研究を募集します。

【助成金額】1年間平均200万円

【助成期間】平成18年10月から1年間

若手研究 主旨にあります「人間性豊かな生活環境の確立」に役立つ着想豊かな研究を期待します。

【助成金額】1年間100万円以下

【助成期間】平成18年10月から1年間

(独)科学技術振興機構 H18年度「先端計測分析技術・機器開発事業」

将来の創造的・独創的な研究開発に資する先端計測分析技術・機器及びその周辺システムの「開発」を目的とする

【学内締め切り】平成18年3月30日(金)

【問い合わせ】<http://www.jst.go.jp/sentan/boshuu.html>

(財)昭和シェル石油環境研究助成財団 2006年度研究助成金の公募

【対象】・萌芽の研究(原則35歳以下) 【助成金額】1件あたり100万円以内

地球環境、地球環境の保全に関連する斬新な萌芽の研究で、テーマは特に限定しません。

・一般研究(原則45歳以下) 【助成金額】1件あたり200万円以内

先端技術に関わる人体影響・環境リスク(IT、バイオテクノロジー、ナノテクノロジーなど)
持続可能な社会の環境ガバナンス(制度・政策、理念・指標、社会経済システムなど)
安全・安心社会創造のための物質循環の評価

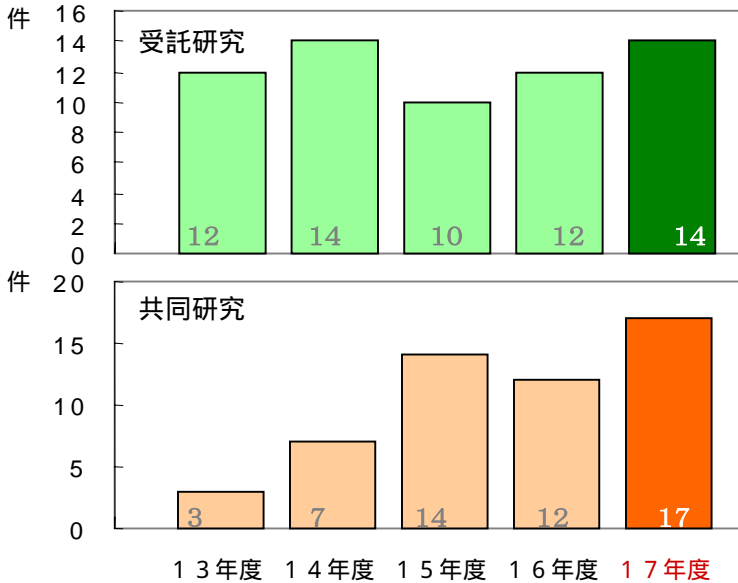
(グローバル/リージョナルスケール、元素循環、資源利用技術など)

・海外旅費 関連する国際会議(2006年10月から2007年9月までに開催されるもの)などで発表をするための海外旅費。国際会議におけるテーマは限定しません。

【公募時期】平成18年5月13日(土) 電子申請

【問い合わせ】<http://www.showa-shell.co.jp/society/philanthropy/foundation/application.html>

5. 平成17年度受託研究、共同研究件数



今年度は上記グラフに示すように受託研究、共同研究ともに増えています。また、「いい先生を紹介していただきありがとうございました。社内も活気づいて若い社員がやる気を出しています。」という大変にうれしいお電話を産学官連携コーディネーターに後日いただくこともあります。奈良県中小企業支援センターの福祉用具研究開発調査事業に採択された生活環境学部松田教授の試作品については、右上新聞記事にも大きく取り上げられ注目されています。



2006.2.10 奈良新聞より転載

6. 今後の予定

- 3月 4日：第5回共生科学研究センターシンポジウム 地球温暖化と都市化 - 緑は環境を緩和するのか？ -
 於：奈良女子大学講堂 主催：奈良女子大学共生科学研究センター
 後援：奈良県 / 奈良女子大学社会連携センター
- 3月14日 産学官連携推進部門会議（学内）
- 3月18日、19日：「奈良県“暮らし”と“環境”フェスティバルWe Love Eco-Life ~ 100%エコライフ体感！」
 於：奈良県文化会館

7. 研究協力課事務室移転のお知らせ

研究協力課と、産学官連携コーディネーターは、東町の総合研究棟（コラボレーションセンター）1階に移転します。移転日は3月10日を予定しております。移転日前後は、ご不便をおかけいたしますが、よろしくご理解をお願いいたします。